

# 府民のくらしと要求

きずな(住民)センターで見える

大阪自治労連は、6月から7月にかけて「きずなアンケート」を実施しました。自治体職員と地域住民のきずなを深め、府民の願いにこたえる自治体をめざし、府職労も大阪市内をはじめ府下各地域の府民とのきずなを深める対話アンケート活動を行いました。府下での集約数は、4,172人、協力組合員は1,000名を超えました。



「こんにちは大阪府職員労働組合のものです。少し時間よろしいでしょうか。アンケートのご協力をお願いいたしました」と一声掛けながら各戸訪問。休日の昼間にもかかわらず快く協力を得ることができました。大阪府職員とい

グラフ1 財政が大変でも住民のくらし、福祉・教育・医療に関わる施策は守るべきか

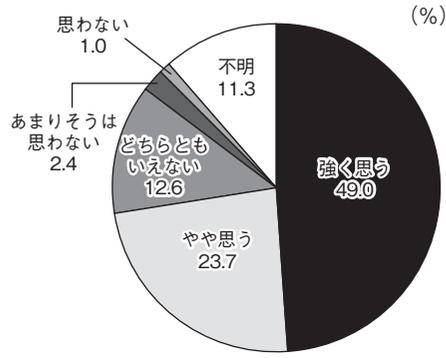
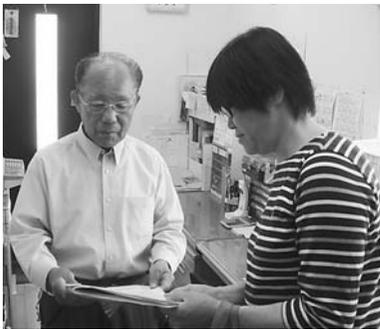


表2 府民が求めているのは？  
「財政が厳しくても、福祉はまもってほしい」「開発よりもくらしを」

(DI値)		
地域医療・緊急医療の充実	82.8	やっています
高齢者・障害者・子育て支援	80.9	やっています
雇用対策の充実	69.4	やっています
中小企業支援強化	63.5	やっています
少人数学級の実現	30.0	やっています
大企業誘致の促進	16.9	やっています
関西空港活性化	-1.1	やっています
府庁のWTC移転	-11.5	やっています
ベイエリア開発推進	-15.1	やっています
福祉教育削って府財政再建	-35.6	やっています

※DI 数値＝要求の強さの度合いを表示するために「実績を求める」から「求めない」を差し引いた数値を表示(%)  
(大阪自治労連 府民アンケート36市町村、4,172人)

負担が上位を占めています。また、金属加工の業者は、「仕事がない。今、受けている仕事が終われば、次いつあるのか判らない」など中小・零細業者からは先が見えない悲痛な声が聞かれました。また、大阪府の施策に対する期待度も浮き彫りになりました。大阪府に対するDI値(ニーズ)が高いと考えられる(高



い施策は、地域医療・緊急医療の充実(82.8)、高齢者・障害者・子育て支援(80.9)、雇用対策の充実

## 一言欄の声から

- 橋下知事の教育施策は学力至上主義で認めることはできない。少人数学級実現のため、教育予算を有効に活用してほしい。(淀川区)
- 国民健康保険料をもっと安くしてほしい。これから年金生活で収入が少なくなります。もっと、医療費の負担も軽くして暮らしやすい世の中にしてほしい。(城東区)
- 府民の病院である府立病院がその機能を失いつつあるのではないですか。公立病院は金儲けすべきではないと思う。(住吉区)



## 第56回 in 福島 日本母親大会

たくましく育つ子どもに 親子でいい体験できた

今回、小学4年生の息子と福島県で行われた大会に初めて参加させていただきました。会場に着きますと、全国からのべ1万3千人余の女性が集まっています。しかも、圧倒されました。しかも、第56回です。年齢、立場、思想は違っても、これだけの人が集まるなんて、本当にびっくりしました。全体会は、「平和と健康



は幸福の必要条件」日野秀逸先生の講演を聞きまし。スウェーデンはなぜ高水準の社会保障が出来たのか？ナポレオンに負けて以降、戦争をしていない事、女性の社会進出がどの分野でも、進んでいる事(女性政治家は全体の43%)など、「この国に生まれてよかった。税は高いが、自分」に帰ってくるので安心」と、答えるそうです。日野

## 10月1日より 時短スタート

10月1日より、拘束時間の15分短縮、7時間45分の勤務時間がスタートしました。1990年、1992年に勤務時間の延長が強い行され、大阪府は全国一長い勤務時間となり、以降府職労では、時間短縮に向け、毎月の時短宣伝ポスター等の啓発

等、長年粘り強くとりくみをすすめてきました。2009年4月、国が勤務時間短縮実施、他府県も時短を実施する中、大阪府当局は、「検討する」と言い続け、実施を先延ばしにしてきました。

昨年未の特別休暇の改善提案に対し、全職員署名や怒りの一言など短期間にこれまでにない数を集約し、子育て世代の組合員による「パパママ大集合」や府民集会の開催、全国・民間団体からの激励など、職場からの怒りの声を背景に、夏季休暇や生理休暇・妊娠障害休暇など改善の一部を押し返し、同時に全国的にも例のない拘束時間の15分短縮を約束させました。

しかし、時短と同時に保育特休は廃止となりま。廃止強行後も、保育にかかる切実な声を背景に、通勤時間緩和等、15分問題の解決をと運動をすすめる、育児部分休業の15分取得が10月1日には間に合いませんが、できることとなりました。その他にも、開庁時間を変えないための時差勤務など、課題もありま。時短になったのはうれしいけれど、職場実態からは、本当に帰れるのだろうか...という声も聞かれますし、時差勤務の問題点も予想されます。

時間外労働なくし、子育てしやすい労働条件を実現するために、今後も府職労とともに奮闘しましょう。

高橋 幹子 (土現支部・鳳分会)